

★少年野球人口の減少（ご意見）

- そもそも子供の人数が少ない。
- 保護者の負担増のイメージにより入部をためらう保護者が多い。
- 指導者が下学年を指導するまで人的な指導者が確保できない。
- スポーツの選択肢の多様化。個人スポーツへの流出。
- 公式大会が多い。
- 仕事と野球の役割のバランスが難しい（スケジュールの確保）
- 保護者が参加できないことに対する精神的なストレス。
- 野球の練習時間の長さ。
- 指導者の暴言や威圧によるマイナスイメージ。
- 他の競技は指導料を支払っているケースがある。指導者がボランティア。時代に合っていない。
- 定期的な休みを設けることでほかのスポーツや友達と遊ぶ時間を確保することで、入部に対するハードルが下がるのではないか。
- 勝利至上主義で、子供が指導者の顔色をうかがって野球をしている。
- 試合出場の機会がない選手のフォローのなさ。

- 大会の手伝いが負担。（アナウンス）
- 三審制で野球素人の父にはハードルが高い。
- 審判員を確保してほしい。

★保護者にとって負担（ご意見）

部員減少 → 保護者減少

【大会】

- 母による大会の本部の手伝い。
- 大会運営のお手伝い。（本部母2人の負担）
- 土曜日大会の保護者確保。
- 審判の動員。
- 本部へのお茶出し。
- 過密日程。
- グラウンド準備・片付け。

【チーム】

配車、スコア、お茶出し、練習の役割、遠征の送迎、長時間の見守り、グラウンド管理
カメラ、アイシング、審判、トイレ掃除、弁当買い出し、ゴミの回収、
スケジュールアプリの管理

【その他】

部費が少なくなり、私費で補填している。

★試合のアナウンス（ご意見） 保護者減少 → 負担大

- 準決勝決勝。
- 決勝。
- 不要…多
- 必要

- アナウンスを苦にする保護者がいる。
- 本部に2名とられるのは厳しい。（下の子供の面倒を見ることができない）
- アナウンス専門の方を雇ってほしい。
- アナウンスは本当に必要か。
- 若鷲大会でやれば十分でないか。
- 毎回アナウンスがあつて選手も有難みがない。
- 登録審判のように得意な方に対価を払ってはどうか。
- アナウンスで試合の雰囲気よくなる。盛り上がる。選手は名前を呼んでもらえる。
- 公式大会決勝戦でのFM田辺の活用。
- アナウンスを女性だけにするのはおかしい。男性でもできる。
- 思いっきり応援したい。

【その他】

- 聞こえにくい時もあるので、無くてよい。
- 交代が多い試合の時には状況が全く分からない。アナウンスするのが不安。
- スコアラーの立場からすると、アナウンスが交代を告げる前に試合が始まってしまう、交代がわからない場合や聞こえず分からない時が多く、練習試合のように主審が告げに来てくれる方が、分かりやすい。
- アナウンスがあるから入部させない保護者がいた。

★大会でのお茶出し（開会式閉会式）

- 役員で対応してほしい。
- ペットボトルの支給でよいのではないか。
- 保護者が少ないときは対応できない。
- だれに出していいかわからない。なぜ出さないといけないのかわからない。
- こういうことがあるから、野球人口が減る、

★学童野球の将来（ご意見）

○もっと気軽に楽しみながら野球に触れる機会があればいいと思う。
○出前授業的な野球体験がしたい。
○保護者の負担軽減が野球人口減少。
○大会や練習を減らすのも野球人口増加につながる。（余暇の活用）
○勝利至上主義から楽しい野球への転換が必要。
○保護者の負担や役割をスリム化して学童野球を運営していくこと。
○子どもたちのための親の負担が影響して野球ができない子どもがいるのではないか。
○地域からチームがなくならないよう入部希望者を増やす努力をし、単独でぎりぎり頑張っているクラブの事を考えた方が良くと思う。
○団体スポーツに取り組む事は子どもの心身の成長にとってとてもプラスになる。努力が報われない時、理不尽に怒られる事、チームメイトとの関係などなど。良い経験にもなり、その子ども達の強みにもなる。
○今年度からポイント制を導入、その意図が達成できたのかどうか、年度末に教えてほしい。
○ポイント制の配点について、勝敗以外の配点が大きすぎる。試合とその他の比率を1対1にしたほうが盛り上がる。
○最近の子供は入部前に野球ごっこをしていないので、指導者の皆様の心労はかなり大きいと思いますが、この「野球の土台」のない層をどう取り入れ育てていくか、指導者の我慢と工夫が必要な時代だと思えます。
○男女で役割を決める時代ではないのではないかと。アナウンスは女性、グラウンド整備は男性、どちらでもよいのではないかと。
○野球教室のような地域全体で取り組むような形であっても良いのではないかと。思えます。
○子供も指導者も色々で合う・合わないがあると思うので、地域のチームが合わなかった場合は他のチームで参加出来るようなルールの改正が必要だと思えます。
○指導者のベンチマナーが問われるようになり、ベンチの雰囲気も変わりつつあるようように思えます。技術もそうですが、子供たちが「楽しい」「頑張った」と思える指導をしてあげて欲しいと思います。チームワークや、お互いに支え合っているか、失敗したときには声を掛け合っているのか、その辺の気持ちをもっと伸ばしてあげられるよう、協議会も考えて欲しいと思います。

○これまでの当たり前を変えて行く必要がある。今年度のポイント制、三審制のように、新しい試みを行うことは、とても良いことだと思う。
○一つのチームで「小学生部」「中学生部」とあれば、高校野球へ繋がる可能性が広がると思う。
○監督やコーチの指導方法も含め、考え方を変えていかないと野球人口は増えないと思います。
○気軽に触れ合えるイベントがあれば、野球は面白いスポーツだという事を理解してもらえ、野球人口も増えるのではないかなあと思えます。
○役員入れ替えによる若返り等、思い切った改革をして欲しい。
○開会式が多い、それに加えて集合時間が早い。
○大会の開催曜日を日曜にしたい

○日本軟式連盟から子供を故障から守るために色々な決まり事が降りて来ている実態もあり、協議会が保護者との板挟みになり申し訳ない気持ちです。『野球は、保護者が大変』アレルギーから、野球をやりたい子供が気軽には入れる環境になるには、協議会の今までのことにとらわれない改革が必要だと思えます。

○40年前、私が小学生の頃から地域のボランティアの大人たちに見守られながら、続いている野球活動ですが、現状、子供の減少、並びにスポーツの多様化により、息子が1年生からお世話になっていてこの5年間見てきた経験として、どうしても厳しい部分が多く出ていて感じます。子供たちの為にBestなものとは何かと大会本部の方々、審判部の方々に多大なご協力を得てことは感謝しかありません。一方、40年前と違い、そのご希望に応えられないケースもチームで出てきている現状があります。BestからBetterへ移行していく事が必要と感じます。その際に、子供の為なのに何故協力しないのか、というようなnegativeな発想ではなく、現代にフィットするような新たな野球へのサポートが、野球人口の減少を抑えていき、結局は子供たちがより良い環境で野球が出来る土台作りになるとのpositiveな発想で考えてくれたら各チームも動きやすいと存じます。サポートへの協力を減少させようとする考え=非協力的な家族というような雰囲気どうしても出てしまうので、そこを本部の誘導で出来たらと期待します。

○子どもが小学校に入学後すぐに「野球に入りたい」と言い出してからずっと、私は「お母さんも仕事があるから今は無理、もう少し野球をやりたい気持ちを大切に大きくしていこう」って声をかけ過ぎていました。今となってはもっと早くに野球に行かせてあげれば良かったなと思います。当時は、自分の仕事、下の子どもしたこと、その時、耳にしていた野球の評判も入部に踏み込めなかった一因にありました。一度、神島グラウンドに試合を見に行った時、監督なのか？コーチなのか？息子は罵声に驚いてしまい、ショックを受けていました。「頑張っても怒られるかな？」と聞いてきたことを憶えています。（今年は時代の流れもあり、減点にもなるパワハラな発言は感じていません。）子どもが「本気でやりたい!!」と、私も覚悟を決め入部しました。入部してみると監督、コーチ、チームのみんなにはとにかく熱心に指導して頂き感謝しかありません。そして私のあの覚悟は何だったのだ？と思います。子どもが野球をする所は心地よい空間で野球を楽しんでいます。上手になりたい、勝ちたいと願い悔しい気持ちも野球をしていなかったら感じる事が無い、貴重な体験ができ嬉しいです。学童期が終わるまで保護者が何もかも犠牲にし、我慢するところなのかと思っていました、全然違いました。だからこそ、自分の子どもだけではなく野球仲間が増え、楽しく野球が出来る日が来て欲しいとです。小規模校で常に存続の危機にありますが、これもプラスに考えて楽しく野球勧誘をしていきたいです。野球が注目されている中で、必要なもの必要でないものを見極め、主体となるのが子どもたちでありますように、子どもたちをとりまく環境を改善していただきたいです。日頃から関わって下さっている皆様の尽力により野球ができてい事に感謝しています。感謝の気持ちを大切に子どもが成長することを願っています。

○私自身も少年野球クラブを経験した身であり、わが子が活動するにあたり感じたことは「まだお茶当番とかあるんや……………」です。

最上級生の父兄ですので何度も部内でそういった昔からある当番が本当に必要なのか？を議論したいと思いましたが野球人口の減少に伴い、今後いつ合同チームへの転換を迫られるかわかりません。そんななか自チームだけお茶当番とかの仕組みをなくしてしまうと、開閉会式等のお茶当番や合同チームになった際の各チーム間での取り組みのずれを思うと安易に提案しにくいのが現状です。

もし可能ならば、各チームからの意見を集約し、チームごとに当番等の在り方を見直すのではなく、貴協議会様が指揮していただくと、よりよい地域の学童野球の輪ができると思いました。

今回このような意見の機会を与えていただきありがとうございます。

○指導者や保護者の負担が大きいイメージが強いため、それを払拭できるように協議会や各クラブは、大会運営やクラブ課題を明確に改善していくことが重要ではないかと思います。今は、共働きの家庭が多く、仕事も多様化しているため土日完全に仕事が休みという家庭もいます。また、小学校入学前の乳幼児を抱えて、野球に参加している保護者もいます。各チームでは効率よく、練習時間を確保して行くことで、指導者と保護者にとってもよりよい学童野球と子ども達との野球以外の時間も確保できるのではないかと思います。学童野球の子ども達に、審判部の方、大会運営の方、いつも寒い中、暑い中来ていただき、保護者としては、いつも感謝しております、なかなか伝える機会が少なく、このアンケートとは関係ありませんが、感謝を伝えたいです。いつもありがとうございます。